

# 東北地区版 組織改革案 提言

公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会  
2020年度 東北ゼミナール委員会



# 東北地区の現状

1. 2020年会員数は**2,744名**、卒業予定者**418名**
2. 過去2年の同月比は**90%前後**で推移。また、本年はコロナ禍で接触の制限や経済環境の悪化により、さらに落ち込むことが予測される
3. 1月時点で在籍3年未満が1,314名（**全体の47.8%**）となっており、今後の組織運営についてしっかりと見直していく必要がある

# メンバーの悩み

会社  
プライベート

年会費

懇親会

終わりの  
見えない  
会議

お金

時間

JCルール？



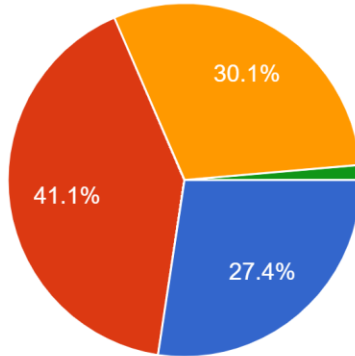
# LOMアンケートを実施

1. LOMにおける組織改革の実施状況
2. 組織改革を行っていく必要について
3. 柔軟で開放的な組織であり続けるために大事にすべき、あるいは見直すべきテーマについて



Q. 貴LOMにおいて組織改革は実施されていますか。

73件の回答



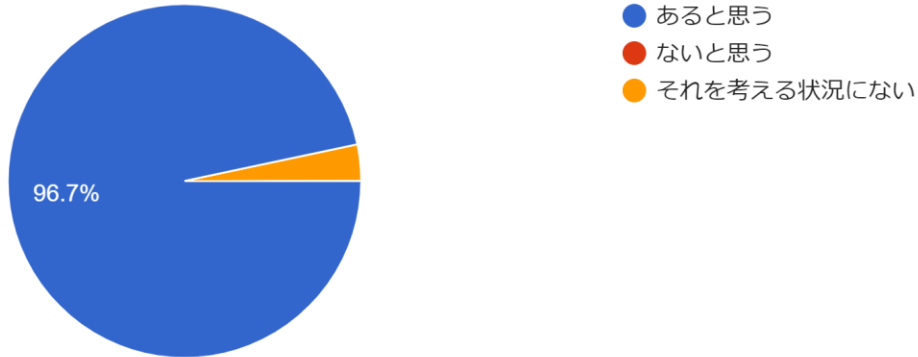
- 実施している
- 実施に向け、検討している
- 実施していない
- ZOOMを使用しての委員会、理事会などは行っています。

⇒ 20のLOMで組織改革が実施されているが、  
まだ全体に波及していないのが実情。



Q. (実施していないLOM対象)組織改革を行っていく必要はあると思いますか。

30件の回答

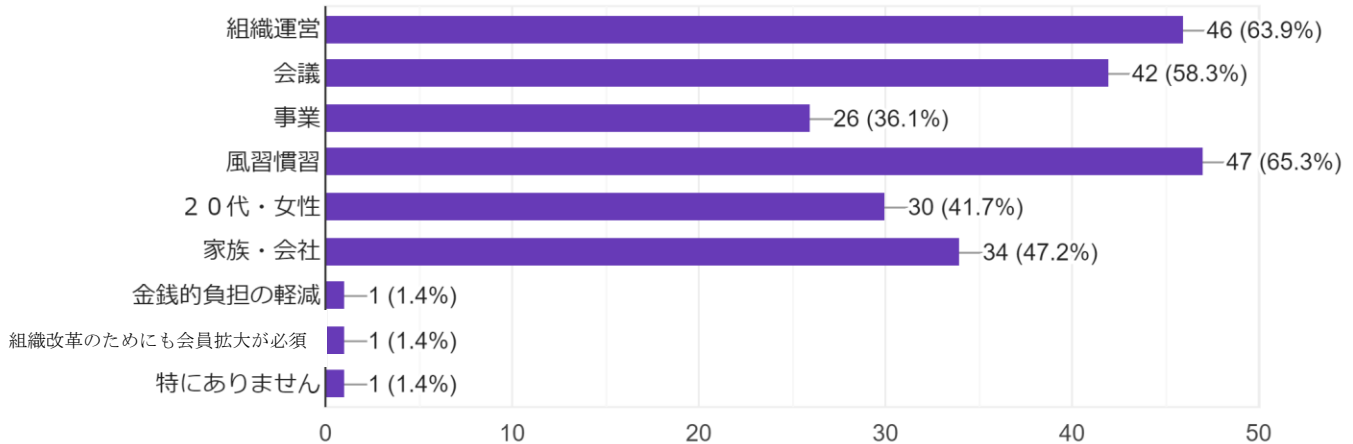


⇒ まだ実施できていないLOMにおいても  
組織改革の必要を感じている



Q. 柔軟で開放的な組織であり続けるために大事にすべき、あるいは見直すべきテーマについて選択してください。（複数回答可）

72件の回答



⇒ 課題として、組織運営・会議の在り方・風習慣習を重要視しているLOMが多い



# LOMが持続可能な組織となるための改革を提案・推進

組織や会員を取り巻く社会環境や社会的価値観が大きく変化し、多様化する課題やニーズに応えられる組織として、時代に即した組織改革を推進していく必要があります。東北地区協議会は、LOMがJCの理念に基づき、柔軟で開放的に活動できる状態になるよう、持続可能な組織となるための改革を提案・推進してまいります。





# ・ 組織改革項目

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 1. 人間関係面（信頼構築や情報共有） | 5 件    |
| 2. 運営面（体制やルール）      | 6 件    |
| 3. 会員拡大面（入会や退会）     | 6 件    |
|                     | 全 17 件 |



# 1. 人間関係面（信頼構築や情報共有）

非常時だからこそ組織内での信頼構築や情報共有を見直し、組織力を向上させる必要があります。

処方箋案

- ① LOMメンバー限定オンラインサロン
- ② ICT技術を活用した学びの機会の創出
- ③ 若手・女性ミーティング
- ④ 情報共有のための「NEW JAYCEE」
- ⑤ 全員に発言の機会を

# ① LOMメンバー限定オンラインサロン

## 【内容】

新型コロナウイルスの発生で、人との接触が敬遠される中、オンラインのプラットフォーム内で情報共有を図ります。

## 【手法】

- ① LOM内でFBのグループを作成し、その中で近況を発信します。
- ② 一人ひとりが週に1度は必ず書き込みを行います。
- ③ 参加メンバーは会員のみとします。

## 【効果】

SNSでの発信・情報収集に慣れることで、自身の仕事や活動などの幅が広がります。

口頭では発言しにくい若手会員も、SNSを通じて忌憚のない発言ができる環境を整えます。



## ② ICT技術を活用した学びの機会の創出

### 【内容】

青年会議所には多くの学びの機会があります。メンバーによってはその機会を体験した方もいれば、体験せずに退会や卒業した方もいます。日本JCIが企画する京都会議やサマコン、全国大会など大規模事業に参加してみたいが、時間的、経済的な理由から参加できないメンバーは少なくありません。より多くのメンバーがこれらの機会を利用できる環境を整える必要があります。

### 【手法】

- ①LOMにおけるパブリックビューイングの設置
- ②LOMにおける各セミナーの映像保管と活用

各大会における様子やセミナーの内容など実際に会場に足を運んだ雰囲気を経験できるように大会全体を映像で保管します。

### 【効果】

各大会において催されるセミナー等を対象その場に行かなくても全てのメンバーが体験できる環境が構築できます。また、映像を保管することで、これから入会してきたメンバーのためのアーカイブ資料とすることができます。



## ③若手・女性ミーティング

### 【内容】

若手や女性はL O M内で少数派のため、組織改善のための意見や要望をし辛い、もしくは声を上げても取り上げてもらえない環境にあります。若手や女性の声を聴く会議を行います。

### 【手法】

- ①若手・女性会員に出席してもらい組織への要望を自由に発言してもらいます。
- ②会議には若手・女性会員以外は参加を認めない。もしくは担当理事1名のみ参加で発言は認めません。
- ③要望事項は理事会で必ず議題とします。

### 【効果】

若手・女性会員の要望を収集できるとともに、若手・女性会員自身も自分たちが尊重されていると感じることで主体性を持って活動することができます。



## ④情報共有のための「NEW JAYCEE」

### 【内容】

- ・現在行われている情報共有は、発信側からの一方的なものが多い。
- ・受信側が連絡を見逃し出欠が取れなかったり、内容を理解出来ていないまま事業に参加 →発信側の意図が伝わらない
- ・発信側が出欠確認をしたり、改めて事業の説明をしたりと二度手間になることが多い。発信側と受信側双方に有益なツールがあることが望ましい。

### 【手法】

- ①Webアクセス型ではなく、個人の端末ですぐに管理入力ができる仕組みの開発。
- ②月単位でJCの予定を一元管理。事業内容やスケジュール、出欠状況の入力確認までをカバーし、発信側、受信側の手間を省く。
- ③未入力の出欠をリマインドし確実に通知することで、発信側の確認の手間を最小限に抑える。

### 【効果】

発信側には、出欠の確認など、二度手間が省け他の部分に集中することができるというメリット、受信側には、JCの連絡事項が一元管理でき、情報の未確認による機会の喪失を防げるというメリットが生まれる。



## ⑤全員に発言の機会を

### 【内容】

事前ヒアリング等から、JC組織では委員長など一部のメンバーの負担が大きく、機会の均等化が図れていません。どんなメンバーでも考えや情報を発信・共有できる機会を提供します。

### 【手法】

- ・毎月、例会などで担当者を決め、発言できる機会を設けます。
  - ・自分の住んでる地域の魅力、最近学んだことなど自分の考えを伝えられるテーマを理事会にて設定します。
- ※誰でも、が大事なので、特例を作らずに全員に発言の機会を与えます。

### 【効果】

- ・自分の気持ちや考えを言葉で伝えるとともにメンバーのプレゼン力を伸ばします。
- ・新メンバーもスピーチに参加することで、組織にコミットするきっかけを作ります。
- ・一人ひとりのメンバーの考え方や情報を共有できます。

## 2. 運営面（体制やルール）

非常時だからこそ組織内での運営体制やルールを改善し、時代に即した体制・ルールへと改善し組織力を高めましょう。

### 処方箋案

- ① J C活動 働き方改革 ～三方良しで持続可能なJ C～
- ②時短会議・フレックスブリーフィング会議
- ③めざまし委員会                      ⑤どこでも会議
- ④組織改革委員会                      ⑥WEB版J Cプログラム





# ① J C活動 働き方改革 ～三方良しで持続可能な J Cへ～

## 【内容】

人口減少社会の中で、個人のライフスタイルや働き方が多様化しており、社会の担い手としての個々人の社会的負担が増大しています。そのような中で青年会議所運動・活動を行うメンバー個々人の①家庭との両立、②時間的制約負担の軽減、③経済的負担の軽減を図り、時代に即した組織への改善を図ります。

## 【手法】

① J Cでも産休・育休制度を取り入れて、メンバーの権利取得を推奨し、産休・育休期間中の年会費徴収を行いません。また、各種事業などで託児制度などを設け、子育て世代でも参加しやすい環境を構築します。

②各種会議において、早朝の時間を活用してWEB会議等を行い、時間を守ったスマート会議を実現します。

③夜に会議を開く場合、開始や終了時間を明確にし、限られた時間を有効に使います。また、会議後の懇親会は行わず、代わりに別日の早い時間に懇親会を設けます。

④WEB懇親会などの手法を導入しながら、会費負担の発生する懇親会の頻度を3割減らすとともに、2次会で終了する文化を組成し、懇親会費負担の軽減を図ります。また、若年層に配慮した年会費設定や、収益事業などで収入を確保し個人の年会費負担を低減させることなどを検討します。

【効果】家庭や仕事への負担を減らすことができ、家事育児を両立しながらも活躍できる環境を構築します。またメンバー個々人の負担を軽減し、仕事、家庭、青年会議所活動を真に両立できる環境を構築することで、青年経済人として自立・自律した活動を展開できるようになります。



## ②時短会議・フレックスブリーフィング

※フレックスブリーフィングとは、決められた時間に行う通常会議と異なり、自分たちの都合のよい時間に合わせて事項・事案に対して意見出し、対応することを指します。

### 【内容】

地域が広域化し、メンバーが集合するにも時間的な負担も大きいケースがあります。また、時間にシビアなメンバーも増えています。会議時間を短時間に限定したり、オンラインツールで非同期に会議を開催します。

### 【手法】

1. 委員会の実施時間を決めて、その時間でできるだけの議題を設定します。
2. 集合せず検討事項などを動画や音声で配信し、それに対するコメントなどで意見を収集します。

### 【効果】

拘束時間が最小限となり、メンバー個人個人のスキマ時間を使ってパフォーマンスを最大限に発揮することができます。



## ③めざまし委員会

### 【内容】

退会希望者・スリープ会員を対象として、その原因を調査し、対応を検討するとともに、対象者が貢献・活躍を通じて輝ける場を設けます。

### 【手法】

1. 退会希望やスリープに至った原因を調査し、改善に向けた対応を検討します。
2. 退会希望者・スリープ会員の得意分野を使って少ない負荷で関われる事柄を検討・用意します。
3. 対象者の都合に合わせた日程で委員会を設定し、委員会では、対象者に積極的に機会を提供し、1. で用意した事柄を担当してもらおうようにします。
4. 成果の提供があったら。メンバーから謝意を伝え貢献の実感を持ってもらいます。

### 【効果】

自らの活躍や貢献を実感することで、メンバーとの距離感が縮まり、復帰の意思を高めることに繋がります。



## ④組織改革委員会

### 【内容】

長年の風習慣習に従って理事会や委員会運営をしていると視点が偏ってしまい、思うように改革しづらいのではないのでしょうか。組織改革という観点から見てもらい、改革を推し進めます。

### 【手法】

1. 組織改革委員会を設立し、会社員や女性、お子さんが多い会員など環境により制約が多い会員を選抜します。
2. 理事会・委員会などに構成メンバー以外にも出席(オブザーブ)してもらいます。
3. オブザーバーから参加者へ、悪いイメージに繋がる点がなかったかフィードバックしてもらいます。出された意見については、真摯に受け止めます。

※十分に機能してきた段階から外部の方も交え、さらに改革を推し進めます。

### 【効果】

広報担当の委員会からの通り一遍な発信ではなく、多くのメンバーからJC運動を発信することにより、旧来のイメージを打破します。



## ⑤ どこでも会議

### 【内容】

無料で使えるWEB会議ツールを使用し、実際に会わなくても実施できる会議等を、終わりの時間を決めた上で、WEB上で行う。

### 【手法】

1. 実際に会わないとできないものと、WEB上でできるものの洗い出しをする。
2. WEB会議ツールの使い方を学ぶ。
3. 会議の終わりの時間を決めて、会議資料と共に、参加者で共有する。
4. 会議の参加者は、会議当日までに資料を読み込み、協議したいポイント等を把握した上で、会議に臨む。
5. WEB上でできるものをWEB会議で行う。

### 【効果】

参加者の移動時間が無くなり、終わりの時間も決まることで、その後の予定を立てやすい。自宅でWEB会議に参加した場合、家族がJCに取り組んでいる姿を目にすることで、JC活動に理解を示してくれるようになる。



## ⑥WEB版JCプログラム

### 【内容】

コロナ禍での工夫としてJCプログラムをオンラインで受けられるようにする仕組みです。

### 【手法】

VMVやロバート議事法、JCゲームなどをトレーナーがZOOM等で複数の受講者とやり取りをしながらプログラムを進めていきます。

### 【効果】

新入会員やJCについてまだよく分かっていないメンバーが、直接集まりにくい状況で、トレーナーを遠方から招くことなくプログラムを受講することで、新入会員への研修やメンバーのスキルアップを効率的に行い、効果的に成長へと繋げることが出来ます。



### 3. 会員拡大面（入会や退会）

非常時だからこそ入会者を増やす手法を再確認し、今いるメンバーに目を向け退会者を減らす必要があります。

処方箋案

- ①金銭的負担の半分カット
- ②20代しゃべりば
- ③スポンサー制度の活用
- ④拡大対象の幅を広げよう
- ⑤さらなる女性活躍の機会を
- ⑥率先し行動して地域に頼られるJCへ



# ①金銭的負担の半分カット

## 【内容】

年会費を含む、一年間の活動費（懇親会等を含め自己支出分）の負担を半分に減らす。

## 【手法】

- 1、年間にかかった金額の割り出し（会社負担、自己負担）
- 2、年会費等の見直し
- 3、懇親会の強制感排除

## 【効果】

青年会議所はお金がかかるというイメージを払拭し、経営者でなくても活動できる組織を作る。

金銭的な負担を減らすことで、特に20代や女性の会員拡大に繋げる。懇親会の強制感を減らす事で会員家族の理解を得られやすい。





## ② 20代しゃべりば

### 【内容】

これからの地域を担っていく20代にスポットを当て、若手の考えていることや要望などを情報交換する機会を設けます。

### 【手法】

- ① 20代の会員およびオブザーバーを対象にします。
- ② 自由に発言させる雰囲気を作り、発言を否定しないルールを設けます。
- ③ 考えた内容を実行するサポートまで行います。

### 【効果】

若いメンバーに主体性が生まれ、地域の若い世代を刺激し会員拡大へとつながる好循環が生まれます。



## ③ スポンサー制度の活用

### 【内容】

入会したメンバーや進路に悩むメンバーにとって拠り所であり相談できる相手として、スポンサー制度を活用し、自LOM内で解決を図ります。

### 【手法】

- ①入会したメンバーに必ずスポンサーを2名つけます。
- ②スポンサーを明確にするため、対象者と交流する機会を多めに作ります。
- ③スポンサーはJCの意義、出向の大切さを語り、悩みがあれば応じることを原則とします。

### 【効果】

古くからあるスポンサー制度も形骸化している状況が想定されますが、改めて役割を明確化し、入会したメンバーを守り育てる風土を築きます。新入会員を教育する機会がないLOMにとっては特に有効と考えます。

新入会員としても、拠り所となる先輩が明確になることで何でも相談できる関係を構築し、生涯にわたっての先輩を見つけることができます。また、スポンサーは新入会員に責任を持つ立場から、自身のモチベーションアップにつなげることができます。



## ④拡大対象の幅を広げよう

### 【内容】

- ①主なターゲットとしているのは若手経営者だが、社員もメイン対象として活動し、入会対象の間口を広げる。
- ②1社から1人参加という原則を撤廃し、1社から複数人が入会できる環境を整える。

### 【手法】

- ①会社への還元など、入会に際してのメリットを感じることができる環境づくり。
- ②複数人入会時の入会金、会費の優遇制度の導入。

### 【効果】

- ・同じ会社に他にも会員がいることで、新規入会時の不安が軽減される。
- ・1人の会員が卒業しても会社とのつながりが切れず、卒業生の会員スイッチができないという、会員減少の原因をクリアすることができる。



## ⑤さらなる女性活躍の機会を

### 【内容】

女性の会員数は8%と低く、入会しやすい環境作りをしていく必要があります。日本のグローバル・ジェンダー・ギャップ指数は非常に低い現状であり、女性活躍はSDGs ジェンダー平等に関係しています。

### 【手法】

- ・女性メンバーによるJC説明会を実施します。
- ・例会へ家族参加可とし、家族の出欠欄を設けます。
- ・託児所を設置します。
- ・会議の効率化や、昼開催を実施し、子供も参加可とします。
- ・その他、女性会員が活動しやすい環境を整備します。

### 【効果】

結婚・出産・子育てがしやすい環境は女性が活躍していくに当たって解決しておくべき必須の課題であり、制度や風習慣習を整備し、女性をしっかりと守れる組織にします。

## ⑥率先し行動して地域に頼られる J C へ

### 【内容】

現在の地域社会において様々な目的で青年団体は多く結成され、J C しかない時代から J C もある時代と変化しています。

青年会議所が今後さらに飛躍する運動・活動を行うには、その多くの青年団体とパートナーシップを組み、共に時代の変化に沿った事業を構築していく必要があります。

### 【手法】

ZOOMを利用した他団体との交流、連携の強化を図ります。共通する課題の抽出、相互支援などにより、強固なパートナーシップを構築します。

### 【効果】

会員減少が叫ばれる中、他団体を巻き込んでの事業とすることにより、最小の数で最大限の運動を展開していく発信力につなげることができます。また、交流を図ることで他団体からの会員拡大の機会を創出します。



# 総括

私たちは明るい豊かな社会を実現するべく活動していますが、多様化する現代において、常に変化し続ける情勢や進化する技術・文化に応じて時代に即した組織へと変革していく必要があります。これまで展開してきた**運動の本質を見失うことのない**ように、東北地区協議会として情報発信・共有し、大切な家族や会社、地域社会といった**「全ての人々が笑顔で生きがいを持てる東北」**を実現してまいります。

